

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ★家庭学習と読書推進のポイント教えます★

---

☆☆☆ このメルマガの内容とは？ ☆☆☆

このメールマガジンは、教育振興運動全県共通課題（「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」）の推進にあたり、実践事例の紹介や意見交流を行うために、各実践区事務局、県内小中学校、市町村教育委員会、県内指導主事・社会教育主事、そのほか関係者の方々に送信しているものです。

---

< 目 次 >

- 1 【事例紹介 8】 「矢作中学校（陸前高田市）」            《家庭学習》  
                  「笹渡小・中学校実践区（軽米町）」        《読書推進》
  - 2 【家庭学習】        学力を伸ばすには・・・。
  - 3 【読書推進】        レッツ！読み聞かせ（その 8）  
                          ～読み聞かせ方 6「淡々と読むとは？編」～
  - 4 【教振は今】        教ちゃん、振ちゃん見聞録
  - 5 【みんなの声】     ぺっこ言い隊
  - 6 【編集後記】        あつしのひとりごと
- 

- 1 【事例紹介 8】 「矢作中学校（陸前高田市）」            《家庭学習》  
                  「笹渡小・中学校実践区（軽米町）」        《読書推進》

今回から、全県共通課題の「家庭学習の充実」と「読書活動の推進」の両方の事例を紹介していきます。

「家庭学習」の事例は、第 7 号で紹介した「いわて家庭の日」記念行事の配布資料に掲載された矢作中学校です。

矢作中学校では、家庭学習を授業に活かす『学びのサイクル』を展開しています。教科の先生から指示された家庭学習（復習・予習）が、次の授業で活かされれば、子どもたちも家庭学習をやる気にもなり、また授業も発言が多くなって活性化されますね。

事例 1 ⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei\\_yahagi.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_yahagi.pdf)

また、笹渡小・中学校実践区では、教育振興運動を推進している教育振興会に読書班という組織があり、そこが中心となって「読書活動」を推進しています。また、地域の子ども会と連携した取り組みも良い方法ですね。

事例 2 ⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei\\_sasawatari.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_sasawatari.pdf)

---

## 2 【家庭学習】 学力を伸ばすには・・・。

「鳶が鷹を産んだ」とか「カエルの子はカエル」といった言葉がありますが、学習に関していえば、当てはまりません。勉強が出来るというのは、遺伝ではなく、本人の努力や毎日毎日の積み重ねです。学力は、ピアノの練習と同じように、毎日コツコツと勉強する中で身につけるものなのです。

イチロー選手の200本安打も、同じ生活リズムと何回となく繰り返してきた素振り、打席に臨むいつもの準備動作を繰り返して、1本1本積み上げたの。イチロー選手に才能があると言うなら、それは「他の人より多く野球のことを考え、毎日同じことを繰り返し努力する能力」を持っているということでしょう。

小学校時代のイチロー選手の作文には、「友達と遊ぶこともせず、野球ばかりの毎日で、そういう自分が野球選手になれないわけがない」とハッキリ記されて書いています。いわば、現代版の星飛雄馬です。

勉強ができる子は、頭がいい子・・・ではありません。毎日のコツコツと努力を続ける子です。家庭学習を毎日する習慣が身についている子です。そういう子どもを育てるのは、毎日続けるように働きかけ、その頑張りを褒め、励ます親であり、保護者と学校の関係であれば、必ず子どもの力は伸びてきます。

毎日、親が優しくそばにいて、兄弟そろって家庭学習をするのであれば、3つのルールをつくりましょう。1つ、勉強の間はしゃべらないこと。2つ、うろうろしないこと。3つ、姿勢をきちんとすること。この3つを30分くらい守らせて、後は自由で結構です。最初にきちんと学習に入れば、あとは大丈夫です。

一緒にやる以上は、一番年下の子の集中力に合わせてなければなりません。ですから、最低30分は静かに集中する。30分を過ぎて、遊びたいなら、お兄ちゃん・お姉ちゃんの邪魔をしないことを約束し、「遊びと学習のけじめ」を教えてあげるいい機会と考えましょう。読み聞かせの時間にしてもいいですね。

お兄ちゃん・お姉ちゃんを褒めて、小さな子に手本を示すと「こうすれば褒められるのか」という学習になり、お兄ちゃんやお姉ちゃんも張り切ります。どうしても、静かに集中できない日は、1ページずつ交代で音読とか、時間を競うようなゲーム感覚で競争心を煽る方法の学習もいいと思います。

---

## 3 【読書推進】 レッツ！読み聞かせ（その8）

～読み聞かせ方 6「淡々と読むとは？編」～

読み手が、感情を込めて読むと「作品のイメージが固定化してしまう」ことや「読み手の解釈を聞き手に押し付けてしまう」ことになるということから、『感情を入れずに淡々と読みましょう』とよく言われます。聞き手が、何の制約も受けずに作品に対して自由に想像を膨らませるためには、読み手の感情は妨げになるということです。

それでは、『感情を込めずに淡々と読む』とは、どういうことでしょうか？「一本調子の読み・・・」ということでしょうか？

一本調子の読みでは、読み聞かせが楽しい時間になるとは思えません。また、読み手が絵本を選び、読み手を通して絵本の内容が聞き手に伝えられる以上、自然と読み手の解釈や感情は入ってくるものだと思います。

そこで、「何のため？誰のため？」の原点に戻ります。読み聞かせには、読み手と聞き手がいて、聞き手のためにおこなうものですから、常に聞き手を意識していなければいけないと思います。ですから、聞き手を無視した独りよがりの感情で読むのはいけないのです。聞き手に聞いてもらおうという気持ちが無ければ、誰も耳を傾けてはくれません。

また、大げさに感情を込めることにより、聞き手が退いてしまうことがあってもいけないと思います。自分の思い入れに任せて、大げさに感情的に表現して、気持ちいいのは読んでいる本人だけ・・・です。『感情を込めずに淡々と読む』とは、一本調子の棒読みをなさいということではなく、「読み手が独りよがりにならないように注意しましょう」ということなのだと思います。

絵本の求めに応じた読み方、自然な表現は必要です。読み方は、会話は会話で、説明は説明で、絵本の流れに応じて、絵本の求めに応じて、自然に心を込めて、・・・でいいのだと思います。

今回は、～読み聞かせ方 7「まとめ編」～です。

---

#### 4 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) 岩手県の中学3年生に関わる45%って、な～んだ？読書に関する数字だよ！

(教ちゃん) え～？ 何だろう？

(ひろくん) それはね。1ヶ月に1冊も本を読んだことがない生徒の割合のことだよ。(H20年度 全国調査より)

(振ちゃん) あっ！ひろくん、答えを言っちゃだめだよ。もお～。

(教ちゃん) へえ～。児童・生徒の活字離れは聞いていたけど、中学3年生の半分くらいが、1冊も本を読んでいないなんてショックだわ。

(ひろくん) もちろん、児童・生徒の活字離れは問題だと思うよ。でも、実は児童・生徒だけの問題じゃないんだ。

(振ちゃん) えっ？どういうこと？

(ひろくん) 読書週間を前に、読売新聞社が実施した世論調査の結果が発表されたのだけど、20歳代の41%が、30歳代の45%が、40歳代の43%が、50歳代の48%が、60歳代の58%が、70歳代の70%の人が、1ヶ月で1冊も本を読んでいないんだ。

(教ちゃん) 本当なの？活字離れは、大人の問題でもあるのね。

(振ちゃん) 今年、「いわて子ども読書プラン2009」が出されたんだけど、親も地域の大人も子どもと一緒に取り組めば、大人の問題も改善されて一石二鳥だね。

(ひろくん) そうさ。子どもに対して一方的に「本を読まなくちゃいけない」と言うのではなく、「一緒に読もう」という姿勢が大人に必要なと思うよ。そんな啓発の取り組みを地域や学校に期待したいな。

● 「いわて子ども読書プラン2009」

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/plan2009\\_gaiyou.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/plan2009_gaiyou.pdf)

● 「岩手の図書館職員がおすすめする児童書」

⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/osusume\\_tosyo.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/osusume_tosyo.pdf)

---

## 5 【みんなの声】ぺっこ言い隊

(1) 教振メルマガの配信をいつもありがとうございます。とてもたくさんの方の参考をさせていただいております。10月13日付けの第6号にありました日本ユニセフ協会岩手県支部が自主上映した映画に大変関心を持ちました。

もう少し詳しい情報をいただきたく、連絡をさせていただきました。お忙しいとは思いますが、お願いできますでしょうか。

(K市 Iさん)

(2) 今回も楽しく読ませていただきました。

家庭学習における「姿勢」の大切さは、とても関心させられました。我が家を思い出してみると、確かに猫背だったり左右に傾いていたり、フラフラして集中できない様子が浮かんできました。

テレビを消したり、2B鉛筆までは実践できていましたが、教育振興運動でも大切にしているあいさつと同様に、我が家でも「姿勢」の大切さを子どもたちと話し合ってみようと思います。

家庭学習について我が家の様子をもう少し申し上げると、時間をかけないでパッと要領良く終える子、ダラダラと時間ばかりかかって進まない子、終わった後にまだ勉強している子に話しかけてジャマする子、様々です。

居間で全員揃って宿題などに組み合わせていますが、上の子が下の子に教えたり、百マス計算の時間をお互いにはかってあげたり、そんな関係が理想ですが、さっぱり上手くいきません。  
兄弟姉妹が仲良く時間と場所を共有して勉強する方法を教えてください。  
(H町 Cさん)

※ありがとうございます。今回のように質問をいただきますと、ともに子どもたちのことを考えている実感が湧いて、うれしく思います。Iさんには、直接詳細をお伝えさせていただきました。また、Cさんには、【家庭学習】の本文で回答に代えさせていただきました。(あつし)

メルマガの感想や日頃思っていること、皆さんの声をどんどんお寄せください。  
⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

---

## 6 【編集後記】あつしのひとりごと

高校生の頃の「思い出」で、忘れられない夜があります。  
1980年12月8日、ジョン・レノンが凶弾に倒れた日。夜通しジョンの歌を聴いて朝を迎えました。私の中で、ひとつの時代が終わった夜でした。

もう一夜。高校3年の夏。司馬遼太郎の「竜馬がゆく」に夢中になり、気がついたら朝日が昇っていました。気分はすっかり坂本竜馬で、朝日に向かって「日本の夜明けは近いぜよ!」・・・。妙に興奮した朝でした。

3年おきに実施している読売新聞社世論調査によると、1996年以来8回連続の好きな作家第1位が司馬遼太郎でした。NHKでは、今月末より本木雅弘主演で「坂の上の雲」が、また来年から福山雅治主演の「龍馬伝」が始まり、歴女ブームはまだまだ続きそうです。これが、読書につながればと願うばかりです。

⇒ 第9号は、11月24日(火)配信です。

★このメールへの感想、ご意見・ご要望は、こちらまで。

⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

★教育振興運動に関する資料は、こちらまで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index.html>

★生涯学習の役立ち情報なら何でも「まなびネットいわて」まで。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/>

★子育てに迷ったら、ひとりで悩まず「子育ていわてケータイサイト」に。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kt-shien/>

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士(さとう あつし)

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

⇒ 学校新聞の裏面に掲載しての各家庭への配布、回覧板を使っての自治会・子ども会への回覧も大歓迎です！

~~~~~